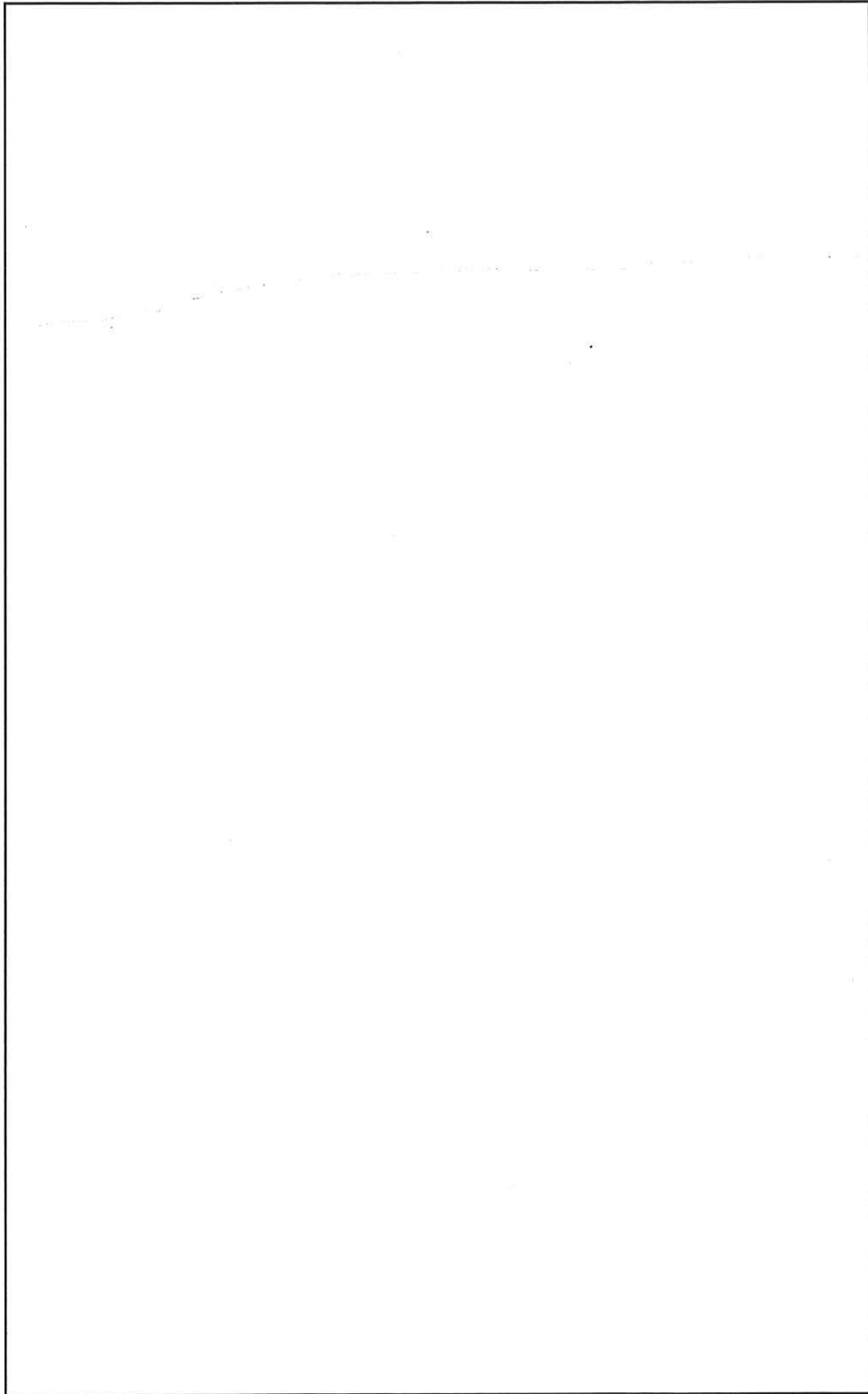
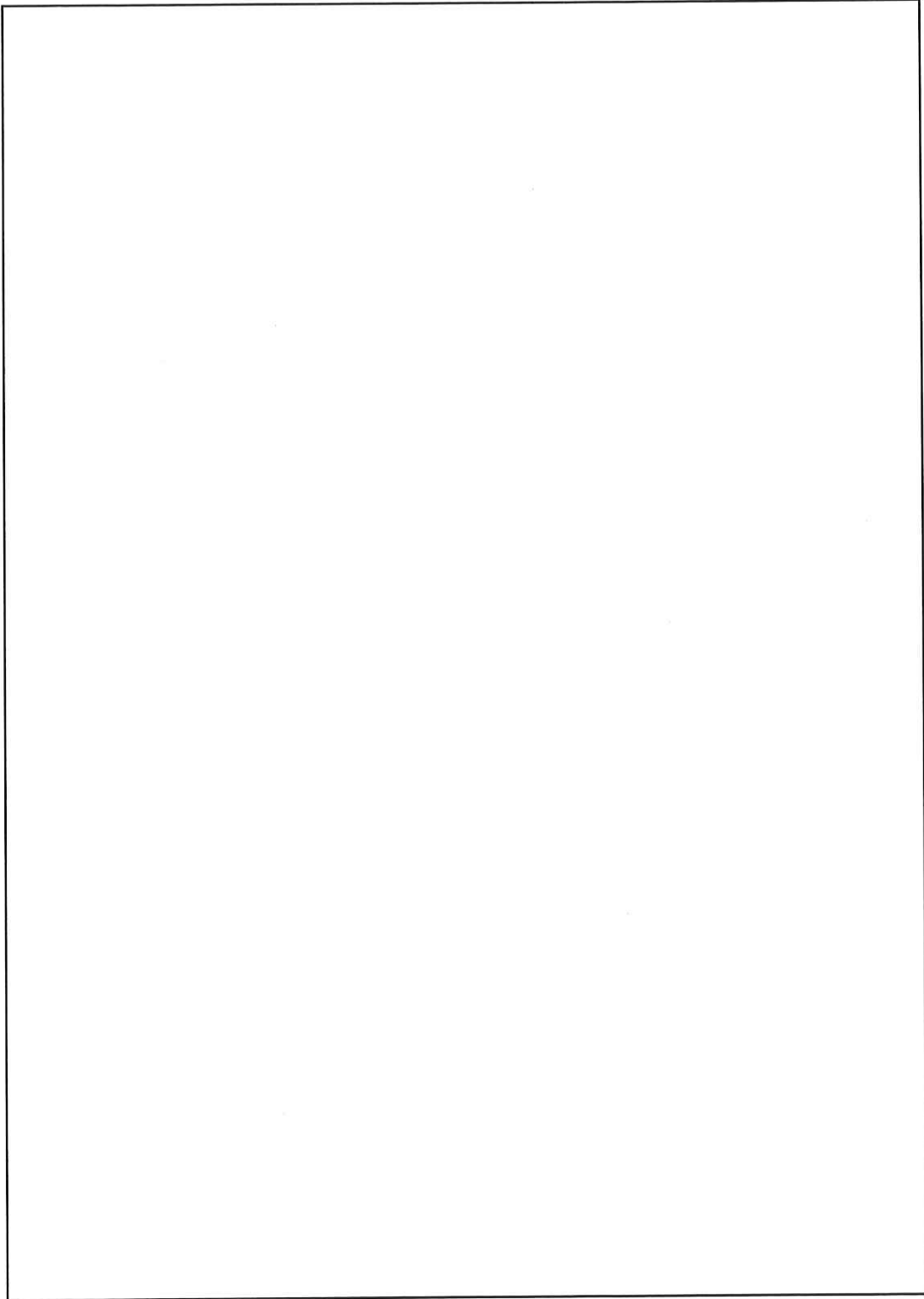
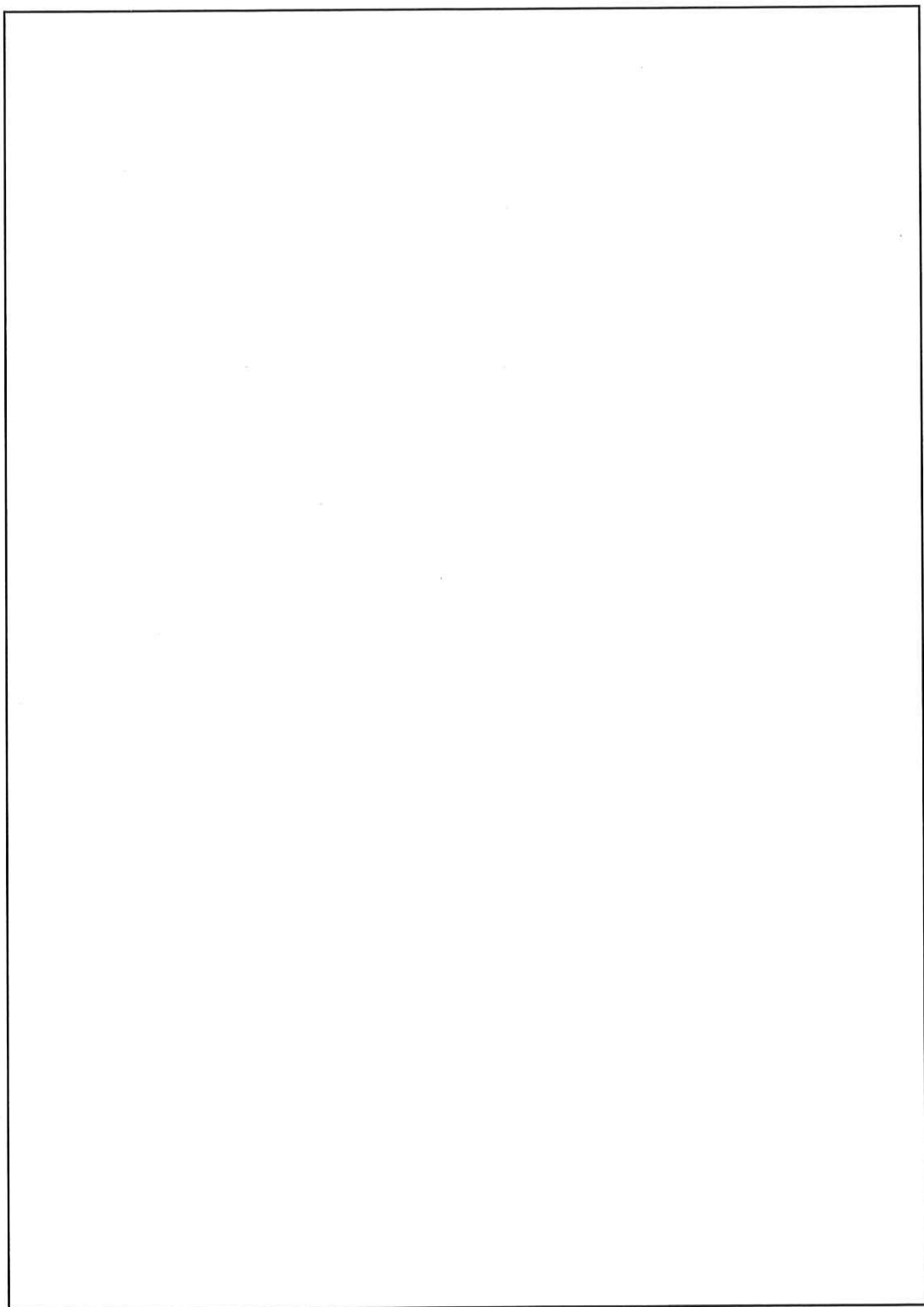


一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。









(浅沼圭司『物語るイメージ——絵画、絵巻あるいは漫画そして写真、映画など』による)

(注) カント・ドイツの哲学者(一七二四～一八〇四)

問一 傍線部(1)～(3)について、片仮名は漢字に直し、漢字は読みを平仮名で答えなさい。

問二 空欄 A に入ることばとしてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 宿命 2 歴史 3 欠陥 4 劣化 5 意志

問三 傍線部(ア)「このこと」とはどのようなことか。文中の語句を用いて四十字以内で答えなさい(句読点も字数に含む)。

問四 傍線部(イ)「対極的な位置にある」とは、神話に対して幼児の体験の語りがどのようなものであることについて言ったものか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 神話が言語化され語りつがれるものであるのに対し、幼児の体験の語りは言語化される以前のものであるということ。
- 2 神話が民族や国家という大規模な集団のものであるのに対し、幼児の体験の語りは個人的なものであるということ。
- 3 神話がたくさんの聴衆や読者をもち得るのに対し、幼児の体験の語りは母親だけしか聴くことができないうこと。
- 4 神話をはるか昔にあったできごとを語るのに対し、幼児の体験の語りはごく最近起きたできごとを語るということ。
- 5 神話が自然のもたらした巨大な災厄の記憶によるのに対し、幼児の体験の語りは空想によるものであるということ。

問五 傍線部(ウ)「おなじようなはたらきをもつ」とあるが、傍線部(イ)「対極的な位置にある」にもかわらずそう言えるのはどうしてか。次の文の空欄 に入るもっとも適当なことを文中から抜き出して答えなさい。

どちらも I 的なものを II 的なものに III しようとするから。

問六 空欄 B E に入ることはとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 しかし
- 2 ところで
- 3 しかも
- 4 いわば
- 5 もっとも
- 6 もしも

問七 本文を読んだ後、先生と五人の生徒が教室で次のような意見を交わした。本文の内容に合っているのはどの生徒の発言か。一人を選び、番号で答えなさい。

先生 本文に出てくる「神話の原初的なすがた」というのは一体どのようなものだと思いますか。

生徒1 とても難しい問題ですね。比較神話学などの方法にもとづく操作によってしか、そもそも復元することのできないものではないでしょうか。

生徒2 過去に実際におこった事実を反映したものであることが考古学的に実証され、はじめて神話の原初的なすがたであると言えるのだと思います。

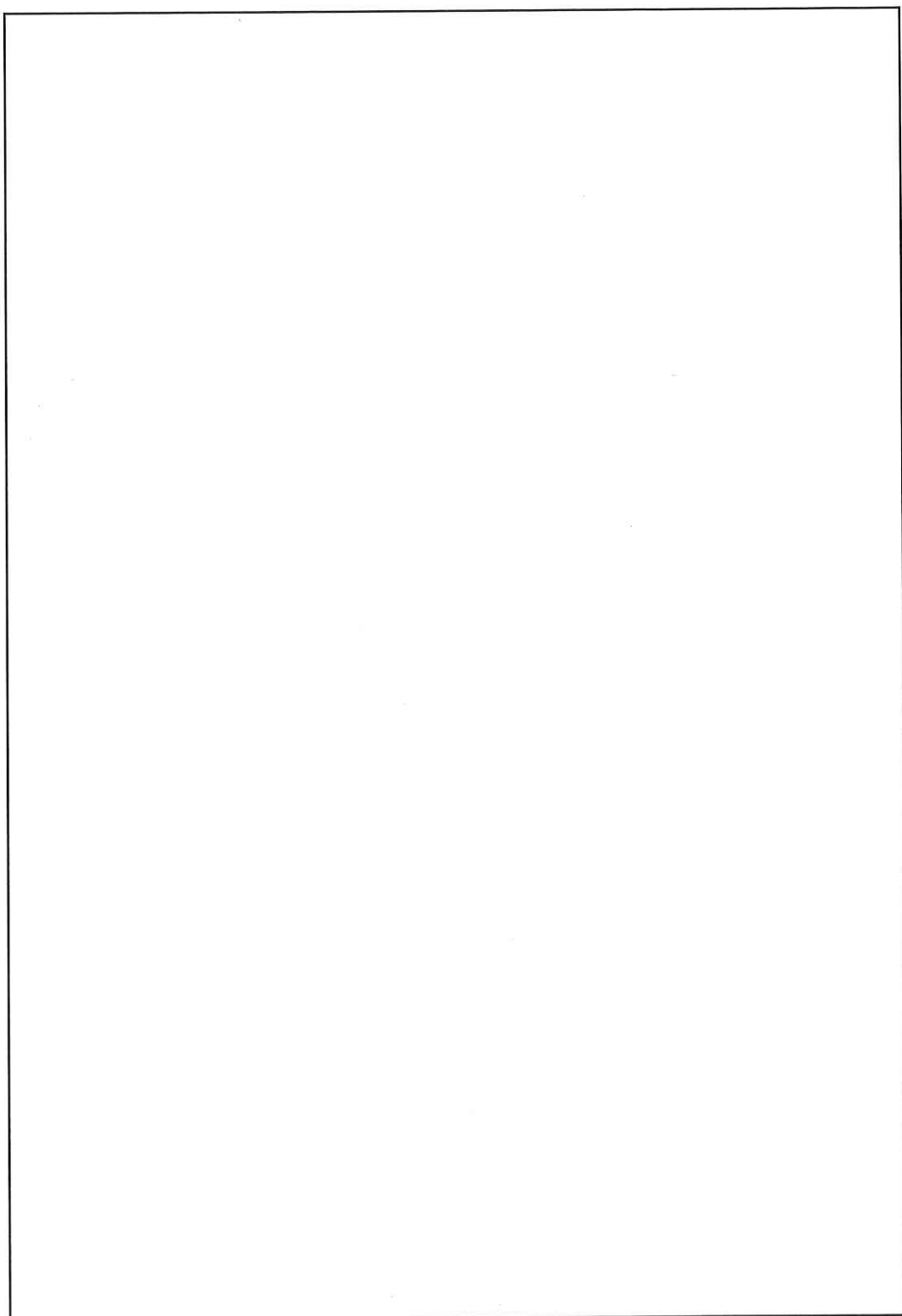
生徒3 そういう学問的な話はさておき、自然の力やそれがもたらす災厄についてのイメージが、おおくのひとびとに共有されてきたものだと思います。

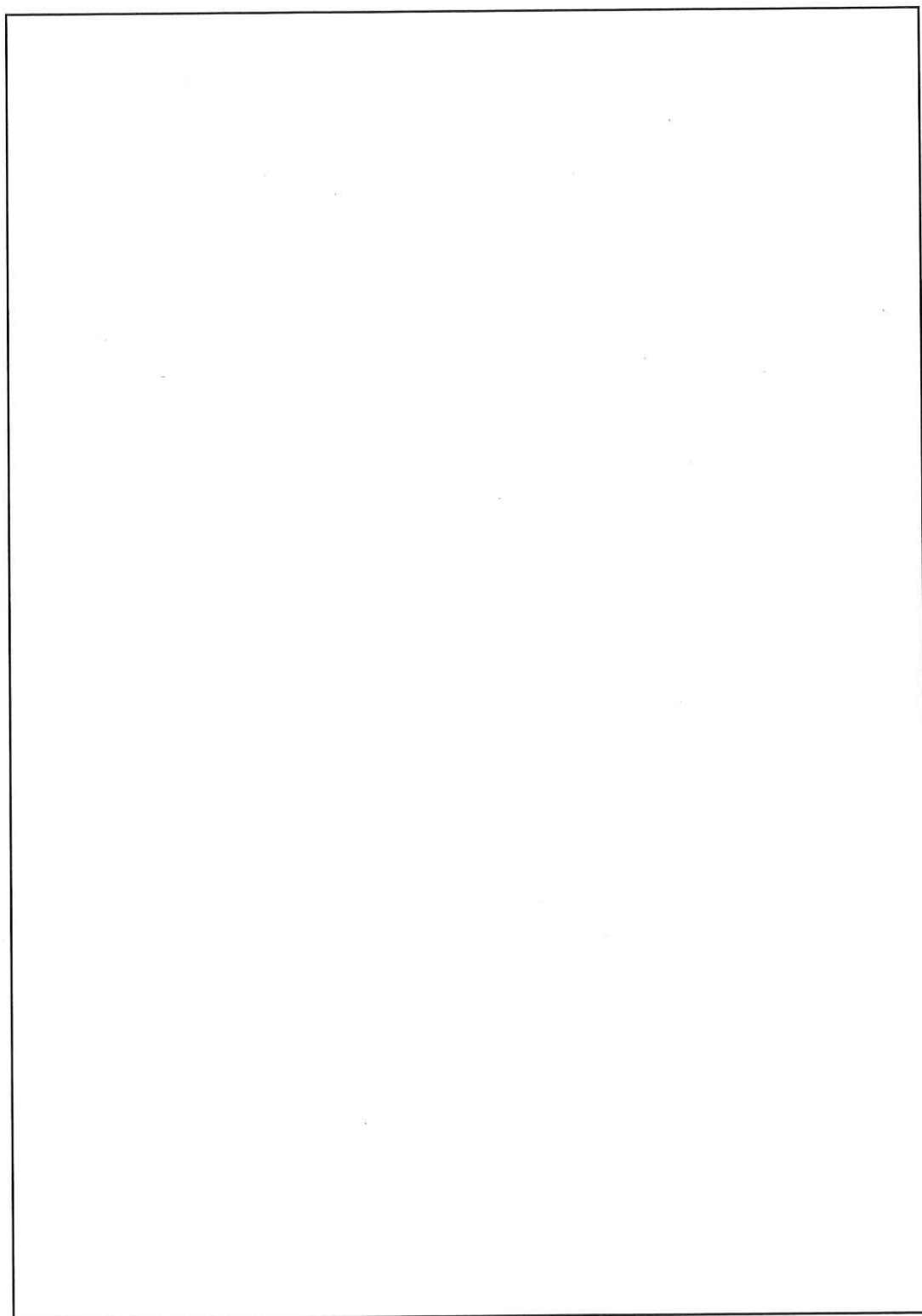
生徒4 そうしたイメージが集められ体系化され、ながいあいだ伝承されているうちに整理・統合されたものが、原初的なすがたなのではないでしょうか。

生徒5 通常神話はある民族や国家の創始者のしごとをたたえるためのものであり、権力によって公認されたものこそが原初的なすがたなのだと思います。

二

次の文章は、井伏鱒二『屋根の上のサワン』の一節である。「私」はある日、鉄砲で撃たれ怪我をした雁^がを沼池の岸で見つけた。これを読んで、あとの問いに答えなさい。





問一 傍線部(1)～(4)の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 傍線部(ア)「私はこの鳥にサワンという名前をつけ、野道や沼池への散歩に連れて出かけたりした」とあるが、「私」がこのようにしばしば散歩に出かけるのはなぜか。その理由を述べている箇所を文中から二十字以内で抜き出して答えなさい(句読点も字数を含む)。

問三 空欄 A B に入ることばとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 または	2 すると	3 けれど	4 つまり	5 たとえば	6 なぜなら
-------	-------	-------	-------	--------	--------

問四 空欄 C E に入ることばとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 まるで	2 もし	3 どうか	4 おそらく	5 いかに	6 どうして
-------	------	-------	--------	-------	--------

問五 傍線部(イ)「サワンは、屋根に登って必ず甲高い声で鳴く習慣を覚えました」とあるが、サワンがこのような「習慣を覚え」た理由を、「私」はどのように考えているか。三十字以内で答えなさい(句読点も字数を含む)。

問六 本文全体から、「私」にとってサワンはどのような存在であると考えられるか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」の世間への不満を紛らわしてくれる存在
- 2 「私」が抱える人恋しさを共有してくれる存在
- 3 社会から孤立する「私」の悲しみを理解してくれる存在
- 4 「私」の打ちひしがれた心情を晴らしてくれる存在
- 5 物思いにとらわれがちな「私」のそばにいてくれる存在

問七 文中の表現についての説明としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 二重傍線部①「あたかも飼犬がその飼い主に仕えるのと少しも変わりませんでした」という比喩は、サワンを犬のように従順にしつけようとする「私」の思惑を強調している。
- 2 二重傍線部②「沼池は、すでに初夏の装いをしていました」という表現は、自然に対し親しみを持つ「私」の人間性を、擬人的な表現によってあらわしている。
- 3 二重傍線部③「赤くよこれたいびつな月」という表現は、この夜のできごとを境に「私」が抱き始めたサワンへの怒りを象徴している。
- 4 二重傍線部④「遠い離れ島に漂流した老人の哲学者」という比喩には、老いた体で懸命に鳴き続けるサワンへの「私」の同情が込められている。
- 5 二重傍線部⑤「夜ふけそれ自体が孤独のためにうち敗かされてもらす嘆息」という表現には、かすかな雁の鳴き声を感じ傷的にとらえる「私」の感性が反映されている。

問八 井伏鱒二の作品の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 山月記

2 羅生門

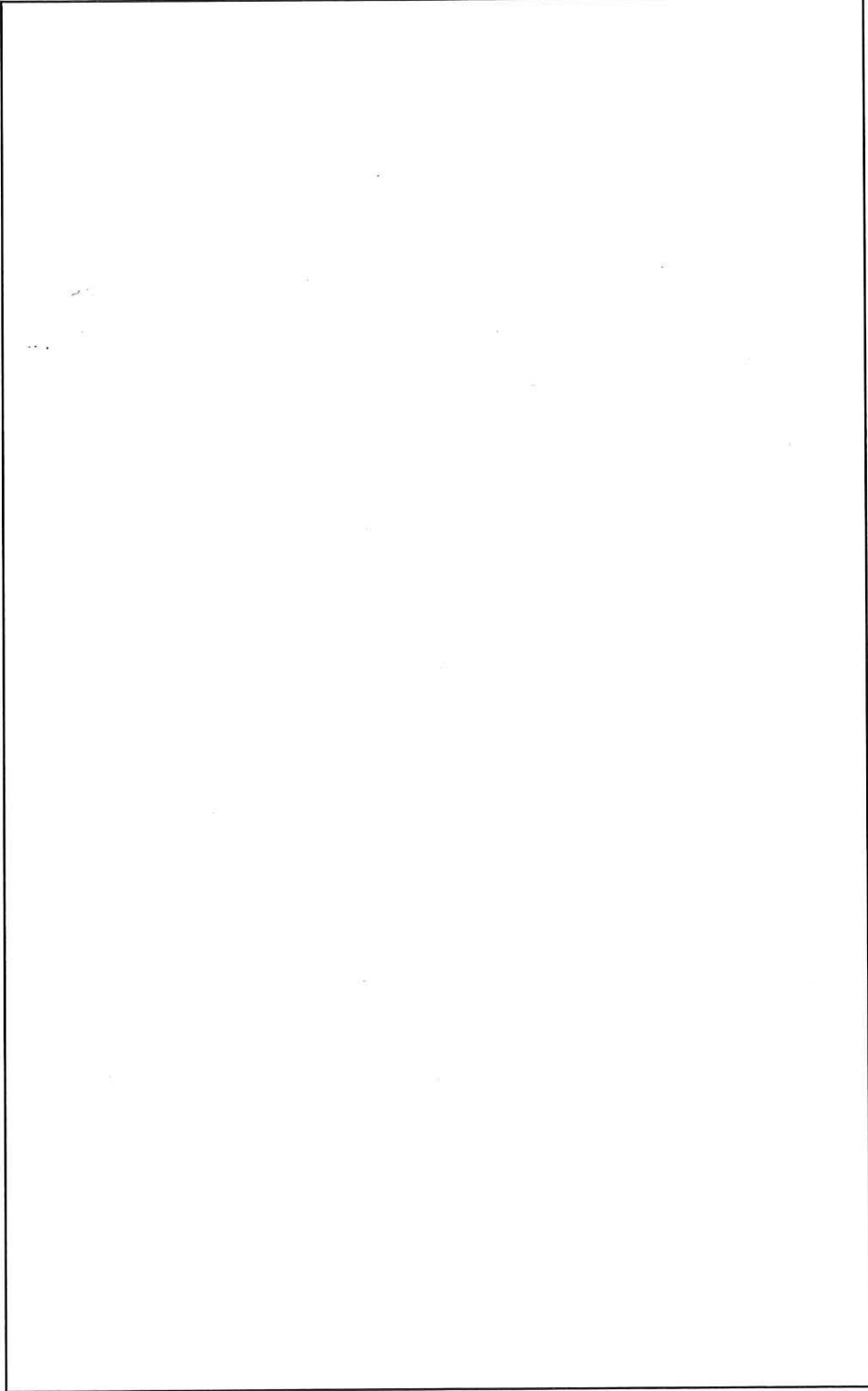
3 山椒魚

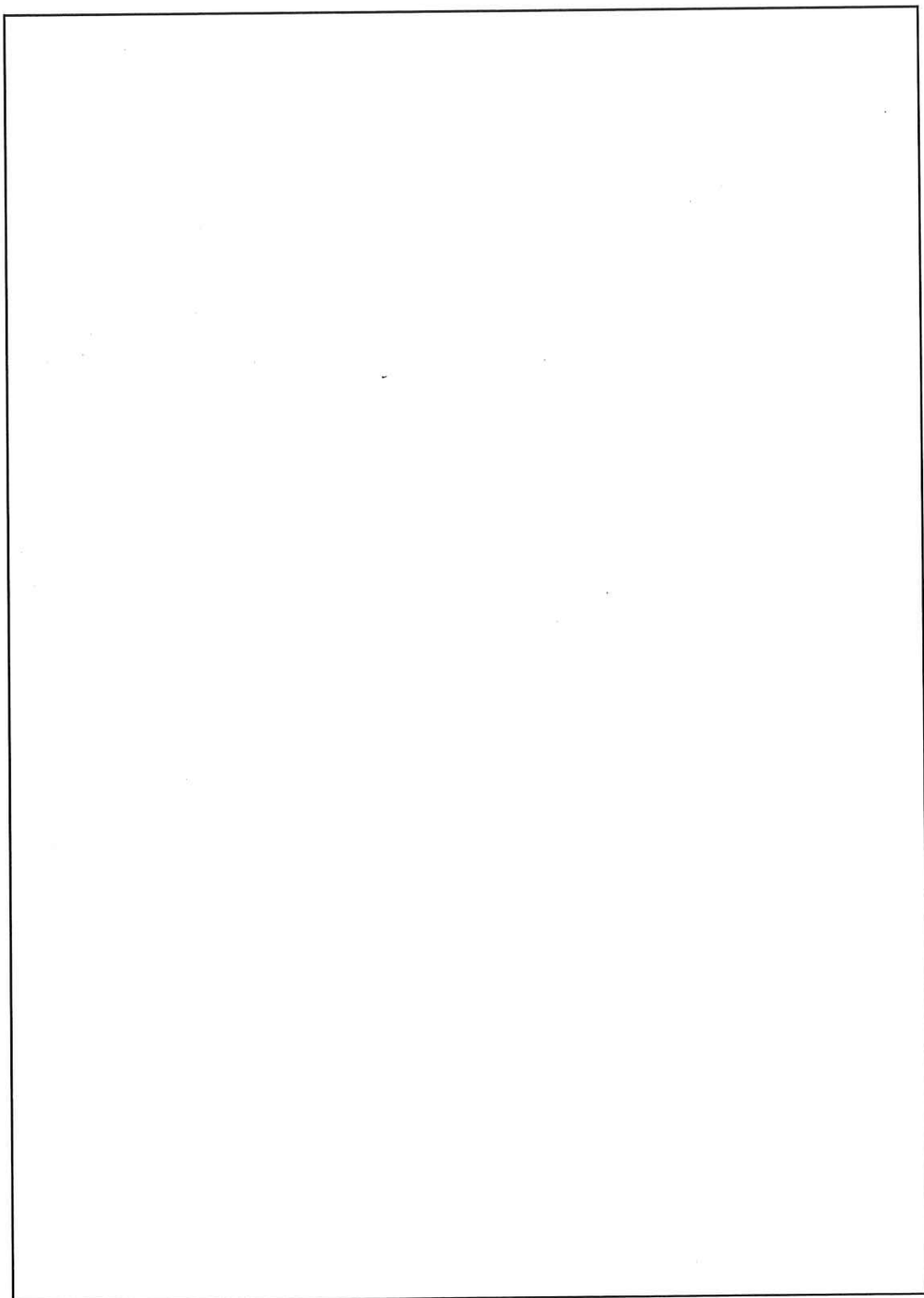
4 檸檬

5 高瀬舟

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。





(驚田清二『つかふ―使用論ノート』による)

(注) マルセル・モースⅡフランスの社会学者・文化人類学者(一八七二―一九五〇)

問一 傍線部(1)～(4)の片仮名は漢字に直し、漢字は読みを平仮名で答えなさい。

問二 文中の「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」「Ⅴ」のいずれかの箇所につき次の一文が入る。もっとも適当な箇所を選び、記号で答えなさい。

「主体」と「客体」という隔たりが生まれるのである。

問三 空欄 A に入ることはとしてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 矛盾
- 2 緩衝
- 3 混沌
- 4 集散
- 5 総合

問四 傍線部(ア)「廻行」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 流れに身を任せて考えること
- 2 原点に戻って効果を試すこと
- 3 進行の過程を逆方向にたどること
- 4 他のものに依存して進めること
- 5 過去にさかのぼって結合させること

問五 傍線部(イ)「それ」は何を指すか。文中の語を抜き出して答えなさい。

問六 空欄 B D に入ることばとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 たとえば
- 2 また
- 3 しかし
- 4 むしろ
- 5 ところで
- 6 なぜなら

問七 本文の内容にもっとも合っているものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 物を使用する能力は、握るといふ行動の試行錯誤を繰り返すなかで了解されてゆく。
- 2 現われる「物」と現われに立ち会う「じぶん」とが分離するプロセスは反復可能である。
- 3 物を掴む能力を身につけるには、道具を用いる技法を身体に定着させる必要がある。
- 4 身体を用いた能力を獲得するためには、「物」と客体への理解の過程が欠かせない。
- 5 手を使って物を掴むことが可能になると、掴むという〈式〉が身体の各部位に転移してゆく。

一

【解答例】

問一 (1) 隆起 (2) じょうじゅ (3) 連鎖

問二 1

問三（記述例）物質は、なんらかの力が外部からくわえられないかぎり同じ状態をたもつというこ
と。（39字）

問四 2

問五 I―カオス II―コスモス III―転換（転化・変換も可）

問六 B―3 C―4 D―5 E―1

問七 3

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取りおよび難読漢字の読み。

問二 語彙力の確認。

問三 指示内容の把握。

問四 内容の把握。

問五 内容の把握。

問六 語彙力の確認。

問七 内容の把握。

二

【解答例】

問一 (1) 飽 (2) 元来 (3) 露 (4) 遠慮

問二 私のくったくした思想を追いはらうため（18字）

問三 A―3 B―2

問四 C―2 D―4 E―1

問五（記述例）空を飛ぶ仲間に、一緒に連れて行ってほしいと呼びかけるため。（29字）

問六 5

問七 5

問八 3

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 内容の把握。

問三 接続詞の理解。

問四 副詞の理解。

問五 内容の把握。

問六 内容の把握。

問七 表現の理解。

問八 基礎的な文学史の知識の確認。

【解答例】

問一	(1)	ほんろう	(2)	浸透	(3)	難儀	(4)	習熟・修熟
問二	Ⅱ							
問三	3							
問四	3							
問五	身体							
問六	B 4	C 3	D 1					
問七	5							

【出題意図】

- 問一 基本的な漢字の書き取りおよび難読漢字の読み。
- 問二 段落ごとの内容の把握。
- 問三 文脈把握力の把握。
- 問四 語彙力の確認。
- 問五 文脈把握力の把握。
- 問六 接続詞の挿入を通じた、文の前後関係の把握。
- 問七 本文全体の内容の把握。